

[抄録様式]

<p>公益財団法人 8020 推進財団 平成30年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>	
1.	事業名：薬局，医科診療所および町保健センターを起点とする地域住民のための多職種連携による歯科口腔保健推進システム構築のためのパイロット事業（2）
2.	申請者名：公益社団法人香川県歯科医師会 会長 豊嶋 健治
3.	実施組織：公益社団法人香川県歯科医師会 国立大学法人徳島大学歯学部予防歯学分野 まんのう町国民健康保険造田歯科診療所
4.	事業の概要：これからの医療と介護では，地域包括ケアシステムの中で多職種連携体制により提供されることによる，住民ニーズに合致した効率的な社会保障サービスが期待されている。近年，周術期口腔機能管理，糖尿病対策，食生活支援などにおいて，多職種連携への歯科からの参画が進展しているが，非歯科医療職から歯科へ向けての参画は不十分であり，住民サービス向上のために双方向性の確立が望まれる。最近実用化された多項目唾液検査装置を地域の薬局，医科診療所，町保健センター等に設置し，薬剤師，医師，看護師，保健師，管理栄養士等が，機器測定結果に基づいて口腔健康状態を説明・保健指導を行い，歯科受診を要する者へはその説明をするなどの，非歯科から歯科に向けての地域連携システムの構築および歯科からのフィードバックを含めた，双方向性の連携システムの構築を試みる。
5.	事業の内容：香川県まんのう町琴南地区では，香川県地域医療介護総合確保基金による「口から食べる楽しみ」支援体制整備事業を活用した医歯薬の連携体制が構築されており，この事業に参加している地域の薬局・医科診療所・保健センター・歯科診療所が本プロジェクトに協力した。多項目唾液検査装置（ST）を地域の薬局町保健センターに設置し，非歯科の各医療職が其々のクライアントの口腔健康状態を説明し，必要に応じて歯科受診を勧奨する体制を推進した。特に今年度は，薬局を歯科保健情報の発信拠点として住民が活用できる環境の整備による“歯薬連携システム”の拡充を第1の目標とし，かかりつけ薬局機能の強化の支援を目指した。
6.	実施後の評価（今後の課題）：唾液検査装置（ST）を薬局と町健康センターに設置し，歯科医師等から薬剤師や保健師に対して歯科保健についての研修会を実施した。受講した薬剤師等の非歯科医療職によって，客観的な唾液検査データに基づいて，歯科口腔保健指導を地域住民に提供することが可能となった。実施に当たった非歯科医療職，および地域連携事業に参加した歯科医院へのヒアリングとアンケート調査から，地域保健活動における多職種連携の中での歯薬間の連携への期待，およびその実施のためのツールとしての ST 検査の有用性が示唆されたが，同時に，歯から薬に向けてのフィードバック体制の不足と，歯側の多職種連携に対する意欲に医院間の温度差が大きいことなどが問題点として抽出された。